

TOP > life > 鎌倉から、ものがたり。 > 記事



古民家カフェで続く、朝の掃除とあいさつ「甘夏民家/雨二モマケズ」(後編)

文 清野由美 写真 猪俣博史
2019年2月15日



>> 写真特集はこちら

鎌倉・長谷の歴史的な街区にあるシェアハウス「甘夏民家」のリビングルームは、週末にはカフェ「雨二モマケズ」として、外からのお客さんを迎える空間になる。オーナーの横山亨さん(45)、孫鎬廷(ソン・ホジョン)さん(44)夫妻が淹(い)れてくれる薫り高いコーヒーと、ホームメイドのヴィーガンスイーツの味わいが、心地よい木造の空間によく似合う。

すぐ隣は鎌倉最古の神社といわれる「甘縄神明宮」。右隣の公園の向こうには、鎌倉のみならず神奈川県下で最も華麗といわれた洋館「旧諸戸邸」。そんな境界の文化的な雰囲気や映すカフェには、ご近所の常連も多い。

横山さんと孫さんが、築80年になるこの家を購入したのは2014年。そこから2年という月日をかけてリノベートを行い、シェアハウスとカフェをスタートさせた。放っておけば取り壊されるかもしれない木造建築を、改装で快適性を高めながら、よりよい形で次代に伝えたい。そんな思いではじめたことだったが、最初から周囲に歓迎されたわけではなかった。

「歴史的な場所によそ者が入ってきて、しかも人の出入りの多いシェアハウスやカフェにします、となれば、警戒されるのは当たり前ですよ」(孫さん)

毎朝、敷地の周囲を掃除して、通りで出会った人には必ずあいさつをした。それ以外に、自分たちの気持ちを伝える方法が見つからず、必死の思いだったという。

「オープンまでの2年間は、自分たちがやろうとしていることに自信が持てなくなる時もあり、精神的にも、肉体的にも、もちろん経済的にも、本当に大変でした」

苦労話を語りながらも、孫さんはカラッと笑う。心が折れそうになったとき、偶然目にした「雨二モマケズ」という言葉に励まされ、それをそのままカフェの名前にした。

16年、カフェオープンに先駆けて、ご近所の人たちを招待したら、思いがけず、たくさん集まってくれた。「ここまで本気でやるとは思っていなかった。全力でサポートするよ」と、境界の有力者が手を差し出してくれたときは、思わず涙が出た。

孫さんは最近、カフェを開いて本当によかったと思うことがある。それは、社員時代には出会えなかった人々と知り合い、本音で話せることだという。

ソウル育ちの孫さんは、02年に留学生として来日。バックパッカーだった大学生時代に、インドで知り合った横山さんと日本で再会し、すぐに結婚、そのまま日本で暮らすことになった。外資系化粧品会社への就職も決まり、仕事とともに新しい生活を前向きに進めていたが、日常の中で、外国人に対する偏見や差別的な言動に傷つくことも多々あった。

「私の痛みは誰にもわかってもらえない、と心を閉ざすこともありましたが、でも、カフェを開いて自分の考えが変わったのです。カフェでは一見、何ひとつ不自由のなさそうな方が、ぼろっとこぼされる胸の内に触れることがあります。そんなお話を聞かされたら、人はそれぞれの苦しみや悲しみ、痛みを抱えているのだ、ということがわかりました。その心情は、他人にはとうてい推しはかれないものですが、それでも理解はできる。自分の悲しみがあるから、相手の痛みもわかる。そのことは、私の人生を救う大きな気づきでもありました」

「甘夏民家」のすぐ裏手には、川端康成が『山の音』で描いたイチヨウの古木がある。その先は、清涼で、どこか畏れ多い「気」がただよう甘縄神明宮。孫さんは続ける。

「ここにいると『住まわせていただいている』という気持ちが自然と湧き上がってきます。同時に、この世界はみんなが違って当たり前なのだから、窮屈にならず、伸び伸びと生きていければ、とより強く思うようになりました」

今もふたりは周囲の掃除を続け、庭と家の手入れに余念がない。よみがえった古民家のカフェでは、国籍も年齢も性別も関係なく、人々がおいしいコーヒーを分かち合う。そのことの幸せを感じさせてくれる場所だ。

>> 写真特集はこちら

>> 鎌倉から、ものがたり。バックナンバーはこちら

PROFILE

清野由美 (きよの・ゆみ)

[PR]

シェア 29 ツイート list フォーマット メール 印刷



この記事を入ったら「いいね！」しよう

いいね!

フォローする

PROFILE

清野由美 (きよの・ゆみ)

Pickup!

一家で葉山に移住して始めた本の店 bookcafe

体の中からポカポカ。鮭の粕汁 料理家・冷水希三子の何食べたい?

高岡早紀さん、女優人生の転機はあの人との出会いから インタビュー

うつ発症も乳がんの私を支え続けてくれた母に花束を 花のない花屋

愛され続ける義理チョコ、ブラックサンダー はじまりの場所

PR 注目情報

南米最高峰での挑戦! 場所を選ばず過酷な環境も仕事場に同行する記者を支えたタフブック

老後不安、受験生と同じ? 「まあ、いいか」の先延ばしは危険特集: 50代からのおひとり生活

ローン有でも売れました! 住宅ローンがあってもスムーズにわが家を売却できた秘訣はコレ→

What's New

- > 死者の国の神ハデスのビジュアル
- > 笠松将、フジ『平成物語』に出演
- > 山崎紘菜、『平成物語』で初主演
- > ギャル曽根、6歳長男も“大食い”
- > 神奈月、高嶋ちさ子のものまね挑戦

Gallery >

広がる“あるある”の輪 『またもや山田全自動でござる』 gallery

写真家・立木義浩デビュー作『舌出し天使』 gallery

サヴィニャック展 パリにかけたポスターの魔法 gallery

Columns >

体の中からポカポカ。鮭の粕汁 料理家・冷水希三子の何食べたい?

世界選手権2位の実力派ピッツァをワインと TOKYOワインバル・クルージング

古民家カフェで続く朝の掃除とあいさつ 鎌倉から、ものがたり。

うつ発症も乳がんの私を支え続けてくれた母に花束を 花のない花屋

バレンタインデー、忌野家の定番 よなよなパンコ

冷えたお札 東京の台所

国産小麦・自家培養発酵種・長時間発酵・石窯焼きのパン屋 このパンがすごい!

私はいま、パリのチュニジアにいます パリの外国ごはん

九つの命をもつ、おじいちゃん猫 猫と暮らすニューヨーク

水曜日の青山くん5 リーフチヨコレート 朝川渡る

「家の中にテント」からはじまったDIY一戸建て賃貸生活 てまひま

盲導犬訓練士: 五百澤朋子さん 東京ではたらく

ちょっと都心を離れて暮らしてみたら… リノベーション・スタイル

「出発」を共にした思い出のカステラ オトコの別腹

冷凍庫の魚がクスクスサラダに、リゾットに クリトモのさかな道

「大」が付くほど好き 二子玉川の「納豆そば」 おんなのイケ麺

野村友里さん「離れるからこそ、見えること」 野村友里×U A 暮らしの音

&M >

ガラス作家イノナホが誘う光の“美”の世界 GALLERY

&BAZAAR >

最短3分で「おつまみ燻製」が完成 ポータブルフードスモーカー HOBBY



古民家カフェで続く、朝の掃除とあいさつ「甘夏民家/雨ニモマケズ」(後編)



甘夏民家/雨ニモマケズ

神奈川県鎌倉市長谷1-11-35

<https://safaribcompany.net/gallery/amanatsu/>

>> [記事はこちら](#)

写真をクリックすると、大きな画像が表示されます。環境によっては表示に時間がかかる場合があります。

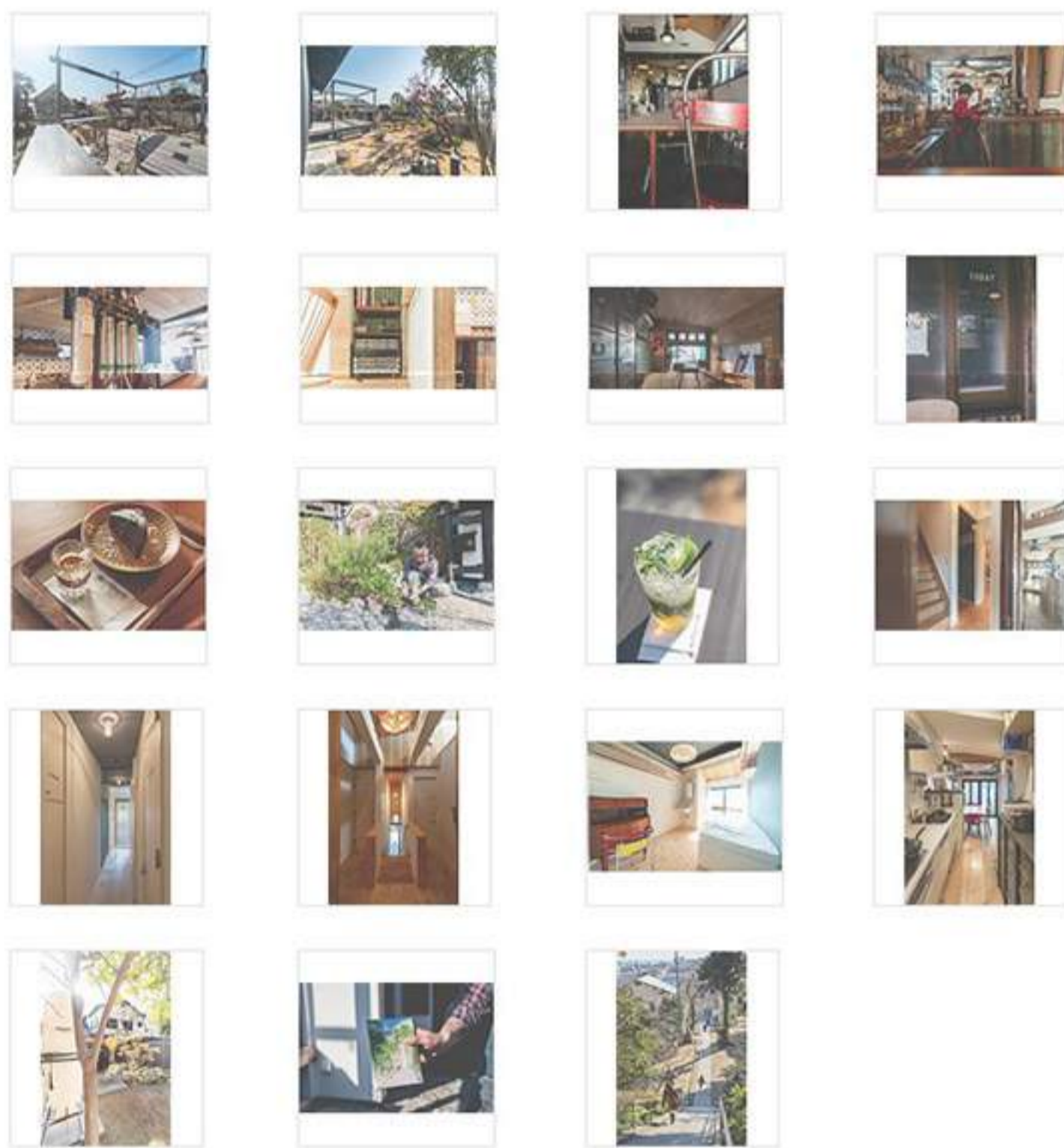


Photo Gallery



[シェア](#) [ツイート](#) [ブックマーク](#) [メール](#) [印刷](#)

0

[list](#)

0